

## 4 計画実現のための推進体制の構築

次期計画に向けては、社会の動きやニーズをふまえて、「人」や「地域資源」を活かしながら、それぞれの立場や実情に沿った体制を作っていく必要があります。

やんばる国立公園指定や世界自然遺産登録等によって、本村が目指す「環境共生型の観光」\*が形になってきました。さらに、社会・経済・環境が良い循環を生む仕組みづくりに向けた取組もスタートしています。また、関連計画や事業者へのヒアリングからは、村民・事業者・行政が一緒になって勉強会や情報交換を行う必要がある、といった声も挙げられています。

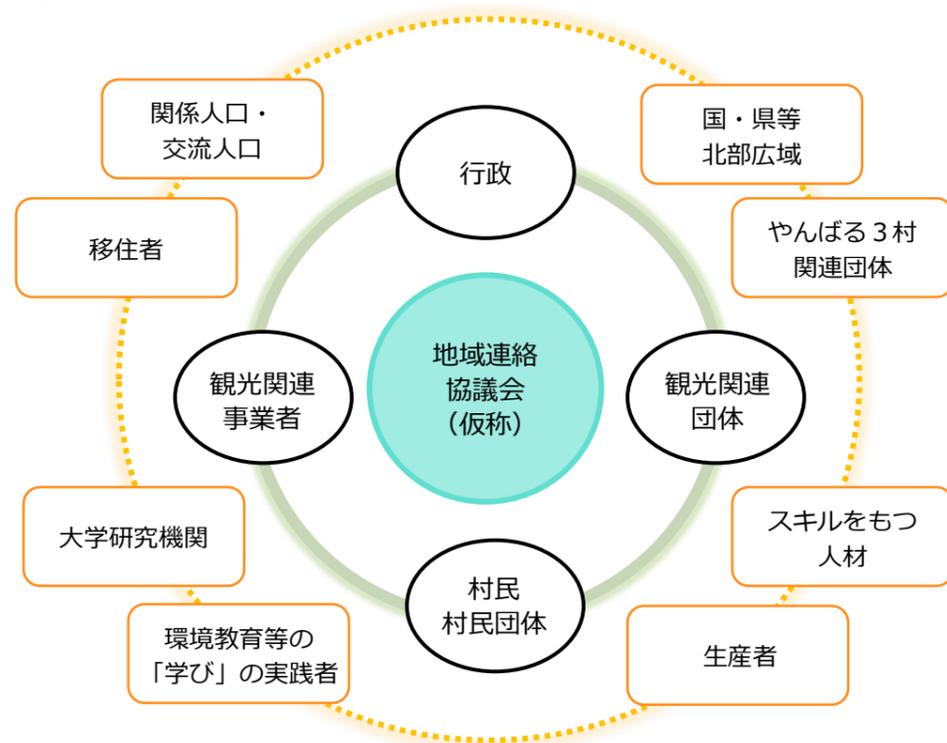
今後の観光振興に向けては、「くんじゃんツーリズム」の現状や目指す姿について、村民をはじめ、関係するすべての人たちが共通認識をもち、効果的な取り組みを進めていくことが大切です。

そのため、当事者誰もが計画の推進や観光振興に関わる意見を述べる事ができる「地域連絡協議会(仮称)」の設置に向けた検討を進めます。

検討に当たっては、行政・観光関連団体・観光関連事業者・村民・村民団体以外でも、これからの時代に合った「くんじゃんツーリズム」を推進するため、新たな主体との関係づくりも検討する必要があります。

\*「環境共生型の観光」とは…国頭村だからこそできる、豊かな自然環境を守りながら活用する観光のこと。

### ■新たな推進体制のイメージ



## 概要版

# 国頭村 観光振興基本計画 (改定版)

2025-2026

## 1 改定版策定に当たって

国頭村では、2017(平成29)年に観光に関する取組の指針として「国頭村観光振興基本計画」を策定しました。この計画では、「自然環境」「産業・歴史文化」「スポーツ」という3つの柱の相乗効果を高めるための観光の基盤づくりを進めてきました。本村が今後も持続可能な観光地として発展していけるように、時代と現状に対応した改定版を策定します。

なお、2026(令和8)年度に改めて本格的な見直しを行い、2027(令和9)年度から新たに「第2次観光振興基本計画(仮称)」をスタートさせる予定です。そのため今回の改定では、第2次計画と連携できるように、観光の基本的な方向性や重点的に取り組む施策、目指すべきテーマなどを見直し、再整理することを目的としています。

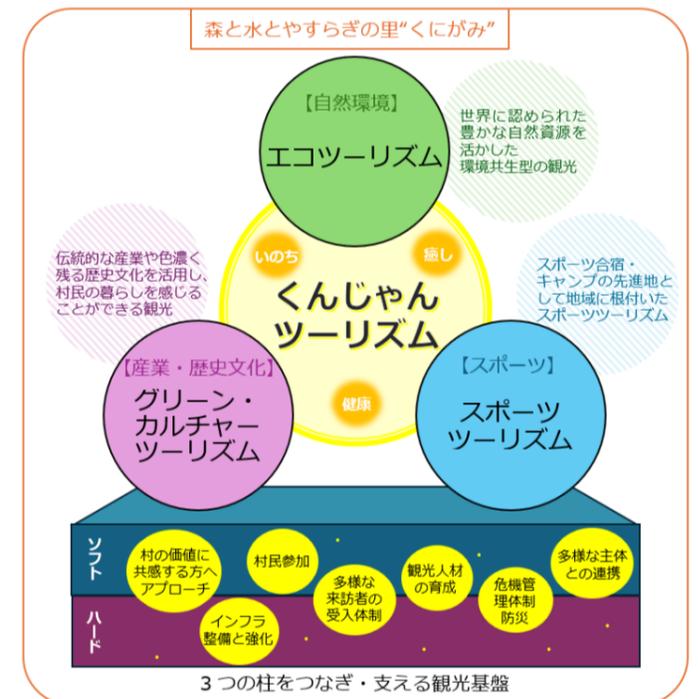
現在の社会ニーズの方向性は、本村がこれまで目指してきたものと重なるため、「基本理念」、「基本方針」はそのままに整理しました。

### 基本理念

「森と水とやすらぎの里“くにがみ”という将来像にふさわしい、いのち・癒し・健康を核とする「くんじゃんツーリズム」を推進する

### 基本理念を実現するための基本方針

【自然環境】【産業・歴史文化】【スポーツ】という3本の柱を堅固なものとするともに、3つの柱の相乗効果を高めるための観光基盤の整備を推進する



### ■計画期間

	2017 (H29)	~	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)	2031 (R13)
観光計画	現計画			改定版		第2次国頭村観光振興基本計画(仮称)				
総合計画	第4次			第5次国頭村総合計画(令和4年度~令和13年度)						

## 2 これからの施策と取組み内容

項目	施策	取組み内容
3つの柱	自然環境 (エコツーリズム)	施策1 持続可能な観光の土台づくり ・自然環境の保全と適正利用の仕組みづくり ・ <b>持続可能な環境共生型観光の共通認識の再構築</b>
		施策2 多様なツーリズムの推進 ・エコツーリズムの推進 ・ <b>アストロツーリズムの推進</b> ・ <b>新たなツーリズムの開拓</b>
	産業・歴史文化 (グリーン・カルチャーツーリズム)	施策1 6次産業化と観光施策の連携強化 ・ <b>6次産業化と連携した観光施策の振興</b> ・ <b>食文化と連携した観光施策の構築</b> ・第1次産業と連携した観光施策の検討
		施策2 地域資源と観光施策の連携強化 ・集落を活用した観光施策の構築 ・歴史文化資源を活用した観光施策の構築 ・ <b>文化芸術を活かした観光施策の検討</b>
	スポーツ (スポーツツーリズム)	施策1 スポーツツーリズムの更なる基盤の構築 ・競技施設の維持更新と更なる機能強化 ・本村らしいスポーツキャンプ・合宿の誘致
		施策2 多様なスポーツツーリズムの推進 ・健康増進・スポーツ振興の更なる充実 ・ <b>スポーツ ICT への取組み</b>
3つの柱をつなぎ・支える観光基盤	施策1 本村の本質的価値に共感する来訪者へのアプローチ ・来訪者ターゲット戦略の構築 ・効果的な情報発信の更なる推進	
	施策2 多様な来訪者の受入体制の構築 ・外国人旅行者対応の構築 ・ユニバーサルデザインの普及	
	施策3 観光インフラの整備と機能強化 ・地域交通（公共・観光）の構築 ・ <b>デジタル技術を活かす環境整備の推進</b> ・ <b>拠点観光施設の機能強化</b>	
	施策4 観光人材の育成 ・新規ガイドの育成やガイドの質的向上 ・ <b>集落案内人の育成</b> ・ <b>観光サービス業を支える担い手の確保と育成</b>	
	施策5 村民参画による観光振興の構築 ・ <b>村民参画の土壌づくり</b> ・観光振興の土台となる地域社会の土壌づくり	
	施策6 多様な主体の横連携による推進体制の構築 ・広域連携の更なる推進 ・ <b>「産官学」連携の更なる推進</b> ・村内の推進体制の強化	
	施策7 安全な観光環境の構築 ・ <b>危機管理体制の更なる強化</b> ・災害時における情報共有の構築	

※赤字は、改定版で新たに追加された取組を示す。

## 3 第2次観光振興基本計画策定に向けて（主要テーマ）

### ① エコツーリズム推進を踏まえた観光施策づくりの検討



環境共生型観光の基盤となる保全と利活用の枠組みづくりの検討を進めている「エコツーリズム推進全体構想」と連携し、観光関係者や地域住民との情報共有に努め、それぞれが当事者としての立ち位置を踏まえた観光施策づくりを検討する必要があります。

### ② アストロツーリズムの土台づくり ★★



長年の取組の成果として星空保護区登録認定の時期を迎え、すでに事業者・団体においては「星空ツアー」の実施や事業計画を進めていることから、インバウンドを含む来訪者ニーズに沿った国頭村らしいアストロツーリズムの土台を、村全体で構築する必要があります。

### ③ 第1次・第2次・第3次産業と連携した観光施策づくりの検討



観光振興による経済・社会・環境の正の循環が求められる中、特産品開発や6次産業化等の具現化に取り組む「振興策推進室」と連携を図り、観光振興における地産地消の枠組みづくりなど、関連する事業者等との協働のあり方を検討する必要があります。

### ④ 比地大滝の再整備の推進



昨年11月に北部豪雨で被害を受けた比地大滝については、「比地キャンプ場等施設リニューアル基本計画策定委員会」を設置し、復興に向けて今後の方向性が検討されることから、関連計画との連携や周辺観光動向も踏まえ、国頭村らしい「保全と利活用」を体現できる施設整備を検討する必要があります。

### ⑤ 官民連携による国頭村らしい観光地づくりの検討



関係者へのヒアリングの結果、事業者は「本物の自然、歴史、文化」を国頭村の特性として認識しており、それぞれの事業の土台ともなっています。また、「産官学」連携による「国頭村サステナブル・ビレッジ推進協議会」が設立され、6次産業化支援、交流拠点（サステナブル観光等）、観光施設防災機能強化などに取り組んでいます。

そのため、国頭村らしい観光地づくりに向け、官民が連携し、観光振興の動向に関わる情報共有や施策連携など継続的に協議する必要があります。